

Ⅲ. 学びをつないでサイエンス・リテラシーを育てる授業

第1章

サイエンス・リテラシープロジェクトⅡ（SLPⅡ）の概要

石川久美

(1) 目的

サイエンス・リテラシープロジェクトⅡ（以下SLPⅡ）は全員必修の授業であり、中高一貫における本校の教育課程の「専門基礎期」である高校1年生と2年生で実施している。高校1年生では、「自然と科学」、高校2年生では「情報と社会」を開講している。全員必修であるこのSLPⅡにおいて、日常生活で必要となる科学的知識と科学的思考力の基礎を身につけさせることを目的としている。日常生活の中で疑似科学を安易に信じたり、少しでも危険性がある事柄に対して、科学的理解をすることなく反対したりする生徒が増えてきている現状を考えて、全生徒を対象に、疑似科学に対処できる知識や方法を身につけることも目標の1つとしている。このためには、データに対する適切な分析方法の獲得が必要であるだけでなく、分析結果を批判的・多角的に検討することも必要である。

SLPⅡは、既存教科のみでは十分扱うことができない教科横断的な課題について考える授業である。既存の知識を関連させながら、答が一つに定まらない課題について考えることによって、単一の明確な答が用意されていない課題を扱う高等教育における学びへとつなげていくプロジェクトの一つである。さらに、学びの杜講座(ASP)においてこれら2つの講座と関連する「生命科学探究講座」と「地球市民探究講座」を設け、希望する生徒は、さらに発展的な内容を学ぶことができるようにしている。

(2) 学習方法

高校1年生は「自然と科学」をテーマに、前期と後期に分け1単位の授業を行う。同様に、2年生では「地球市民学」をテーマに前期と後期に分けて授業を実施する。2年間で合計2単位の実施となる。

各講座とも、本校教員3人によるティームティーチングにより行われる。各講座には、総合コーディネーター・助言者の大学教員が付き、高大連携の授業を行う。2015年度の「自然と科学」では、前期は数学・生物・美術、後期は数学・生物・世界史の教科（科目）間連携で実施している。また、「情報と社会」では、名古屋大学教育学部、他大学と連携し、前期は、英語・国語・芸術、後期は、英語・家庭・体育の教科（科目）間連携で実践している。

学習形態は、1クラスを3つに分けてグループ学習を展開し、生徒が主体的に参加できる授業を心がけている。また、テーマによっては、合同授業も行い共通の理解を深め、他のグループとの交流も実施し、学習を深化させる取り組みも行っている。

	前期	後期
1年 自然と科学	「自然現象の捉え方 について考える」	「人間・自然・宇宙」
2年 情報と社会	「多文化コミュニケーション学」	「共生と平和の科学」